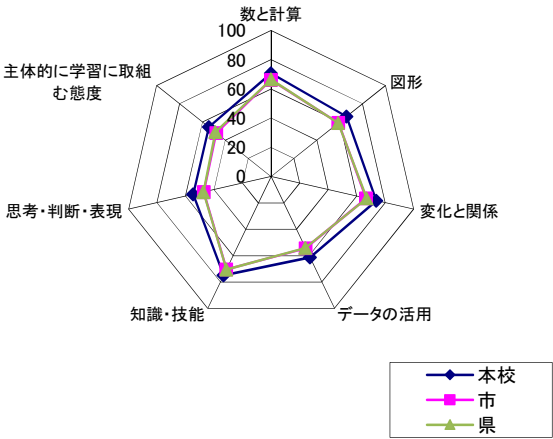


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	66.1	66.4
	図形	65.9	58.9	58.8
	変化と関係	73.8	66.6	67.0
	データの活用	61.3	54.4	54.2
観点	知識・技能	75.0	70.4	70.6
	思考・判断・表現	54.7	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	54.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は70.6%で、県の正答率を4.2ポイント上回った。 ○「分数」の平均正答率は、県の正答率を5ポイント以上上回った。 ●「概数に対応する数の範囲を理解している」の平均正答率は48.1%で、県の正答率を9.3ポイント下回った。	・基本的な計算技能の向上を目指して、朝の学習や家庭学習などの時間を活用し、繰り返し問題練習に取り組ませる。 ・日常生活の中でも「以上・未満」の言葉を使用するなど、算数で学んだ知識や技能を、日常生活や他の教科の学習の中で用いようとする態度や、目的に応じて用いることができる力を育てる。
図形	○本領域の平均正答率は65.9%で、県の正答率を7.1ポイント上回った。 ○「360°より小さい角の大きさを求めている」の平均正答率は87.5%で、県の平均正答率を12.8ポイント上回った。 ●「面積の単位の関係を説明してる」の平均正答率は29.8%で、県の正答率を10.6ポイント上回っているが、他の設問に比べて平均正答率が低かった。	・身近なものの長さや面積を実感できるような活動や、具体物を用いた活動を取り入れた授業を展開する。 ・身の回りで用いられている様々な単位に興味をもたせ、単位のしくみについての理解を深めていく。
変化と関係	○本領域の平均正答率は73.8%で、県の正答率を6.8ポイント上回った。 ○「2つの数量の関係を、元の大きさの何倍になったかを考えて比べることができる」の平均正答率は76.9%で、県の正答率を14.6ポイント上回った。 ●「伴って変わる2つの数量の一方の値を求めることができる」の平均正答率は84.6%で、県の正答率を0.7ポイント下回った。	・表を横や縦に見て、2つの数量の対応や変わり方の特徴を見付けさせたり、表のどの数値でもその関係が成り立つことを確認させたりするとともに、反復練習する機会を設けて習熟を図る。
データの活用	○本領域の平均正答率は61.3%で、県の正答率を7.1ポイント上回った。 ○「2つの折れ線グラフから、必要なことを読みとることができる」の平均正答率は74.0%で、県の正答率を8.6ポイント上回った。 ●「図書室を、先週利用した人数と、今週利用した人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を示し、その求め方を説明している」の平均正答率は38.5%で、県の正答率を17.9ポイント上回っているが、他の設問に比べて平均正答率が低かった。	・グラフの読み取りの技能の習得にとどまらず、グラフを比較し、共通点や相違点を考えさせるなど、グラフを活用する問題を充実させ、応用力を身に付けられるようにしたり、社会や総合的な学習の時間などの他教科に活用し、継続的・横断的に指導したりしていく。 ・順序立てて相手に分かりやすく説明できるよう、日頃から伝え合う活動に取り組ませる。